経営の基本精神に基づくグローバルな研究開発型バイオ医薬品企業のリーディングカンパニーを目指して

武田薬品工業株式会社

代表取締役社長 CEO

クリストフ・ウェバー

2018年12月5日

Better Health, Brighter Future

重要な注意事項

留意事項

本通知において、「プレゼンテーション（presentation）」とは、本プレゼンテーションにおいて武田薬品工業株式会社（以下、「武田薬品」）によって説明又は配布された本書類、口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます。）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。いかなる株式も本プレゼンテーションによって公開されておりません。本プレゼンテーションは、（投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく）情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で（受領者に対して提供される追加情報と共に）提供されております。 当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性がございます。特定されていない限り、本プレゼンテーションにおけるいかなる声明（シナジーの予測の声明を含みます。）も、いかなる期間における業績予測又その見積もりを意図するものではなく、本プレゼンテーションにおけるいかなる声明も、現在又は将来の会計年度における 武田薬品の収益又は1株あたりの収益が過去に公表された武田薬品の1株あたりの収益と必ずしも合致し、又はそれを超えることを意味すると解釈されてはなりません。武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあり得ます。同様に、「当社（we、us及びour）」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあり得ます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあり得ます。

将来に関する見通し情報

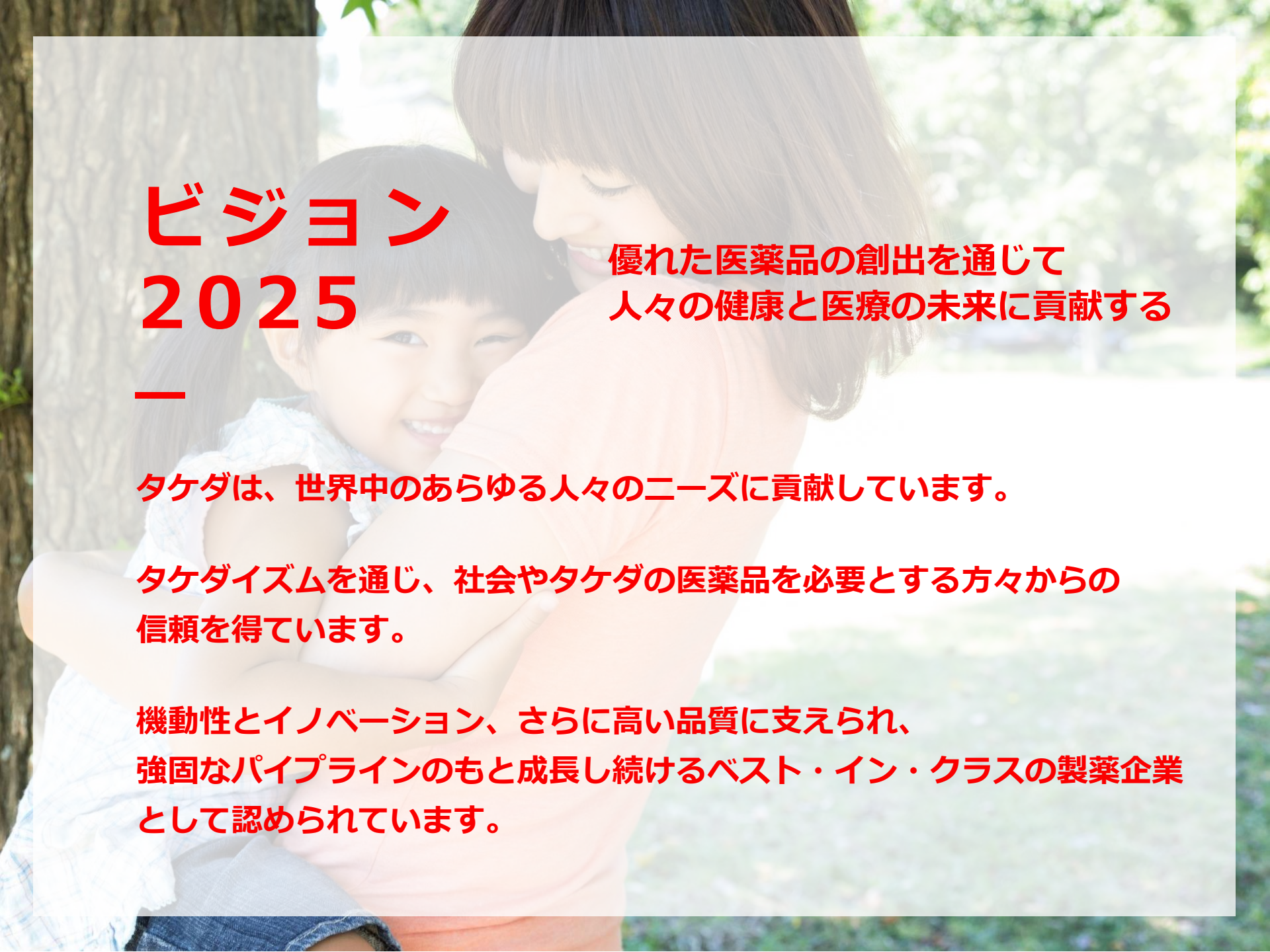
本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見積もり、予測、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。特に、本プレゼンテーションには、2018年事業年度における売上収益、Core Earnings、営業利益、税引前当期利益、親会社の所有者に帰属する当期利益、基本的１株当たり利益、研究開発費、無形資産償却費及び減損損失、収益/費用、並びに実質的な売上収益、実質的なCore Earnings及び実質的なCore EPSに関する情報を含む、武田薬品の財務及び事業業績に関する予想及び経営予測が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする（targets）」、「計画する（plans）」、「信じる（believes）」、「望む（hopes）」、「継続する（continues）」、「期待する（expects）」、「めざす（aims）」、「意図する（intends）」、「だろう（will）」、「かもしれない（may）」、「すべきであろう（should）」、「であろう（would）」「することができた（could）」、「予想されるanticipates）」、「見込む（estimates）」、「予想する（projects）」などの用語又は同様の用語若しくはその否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではございません。この書類における将来見通し情報は、現在当社が入手可能な情報に鑑みて行った当社の現在の前提及び理念に基づくものです。かかる将来見通し情報は、当社又は当社の役員による、将来の業績に関する保証を表するものではなく、既知及び未知のリスクと不確実性その他の要素を伴います。リスクと不確実性には、日本、米国及び世界中の一般的な経済条件を含む当社の事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、関連法規、製品開発計画の成功又は失敗、規制当局による判断とその時期、為替変動、市場で販売された製品又は製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念等、買収対象企業とのPMI（買収後の統合プロセス）が含まれますが、これらに限られません。これらにより、当社の実際の業績、経営結果、財務内容は、将来見通し情報において、明示又は暗示された将来の業績、経営結果、財務内容とは、大きく異なる可能性があります。当社又は当社の役員は、この将来見通し情報において示された予想が結果的に正しいということを何ら保証するものではなく、実際の業績又は経営結果は予想と大きく異なることがあり得ます。本プレゼンテーションの受領者は、将来見通し情報に過度に依存するべきではありません。武田薬品は、本プレゼンテーションに含まれる、又は当社が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果は武田薬品の将来の経営結果を示すものではなく、また、その予測、予想又は見積もりではありません。

医療情報

本プレゼンテーションには、製品についての情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではありませんし、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の効能を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

2018年度の武田薬品の業績予想について

武田薬品は現在、Shire plcに関するオファー期間（英国のCity Code on Takeovers and Mergers （以下、「コード」）において定義される期間をいいます。）にあります。コード第28条に基づき、武田薬品による2018年度のガイダンスに関する見解（2018年度における売上収益、Core Earnings、営業利益、税引前当期利益、親会社の所有者に帰属する当期利益、基本的１株当たり利益、研究開発費、無形資産償却費及び減損損失、収益/費用、並びに実質的な売上収益、実質的なCore Earnings及び実質的なCore EPSに関する予想情報を含みます。）は、2018年度における業績予想（以下「武田薬品業績予想」）を構成します。武田薬品業績予想に関する追加情報及び取締役による当該業績予想が有効なものであり、上掲の前提及び当社の会計方針に基づき適切に作成されている旨の確認につきましては、武田薬品の2019年3月期第2四半期決算短信の8ページをご参照ください。



ビジョン 2025

優れた医薬品の創出を通じて
人々の健康と医療の未来に貢献する

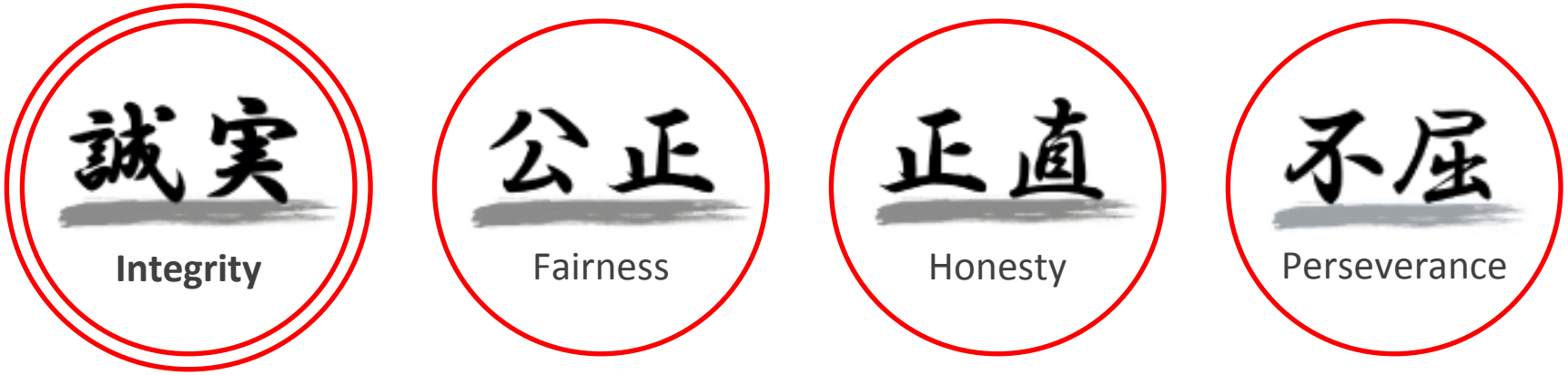
タケダは、世界中のあらゆる人々のニーズに貢献しています。

タケダイズムを通じ、社会やタケダの医薬品を必要とする方々からの信頼を得ています。

機動性とイノベーション、さらに高い品質に支えられ、
強固なパイプラインのもと成長し続けるベスト・イン・クラスの製薬企業として認められています。

1781年から200年以上にわたり培われた価値観が長期的成功の基盤となる

バリュー (価値観)



私たちは、4つの重要事項について、その優先順位に従って考え、行動や判断の基準とします。

1	2	3	4
常に患者さんを中心に考えます	社会との信頼関係を築きます	レピュテーションを向上させます	事業を発展させます

独自の研究開発エンジンを構築

疾患領域の絞込み

オンコロジー、消化器系疾患、ニューロサイエンスおよびワクチン

パートナーシップと研究開発力の強化	組織文化の変革

研究開発体制の変革における不可欠な要素

- 機動的かつ効率的な組織
- ダイナミックかつ持続可能な研究・早期臨床開発エンジン
- 相互に有益なパートナーシップを通じた変革の推進
- 目的達成に向けた実行に集中

重点疾患領域に集中した生産性の高い研究開発拠点により、研究開発資源を最適化

マサチューセッツ州 ボストン（米国）

研究開発の中心拠点
オンコロジー
消化器系疾患

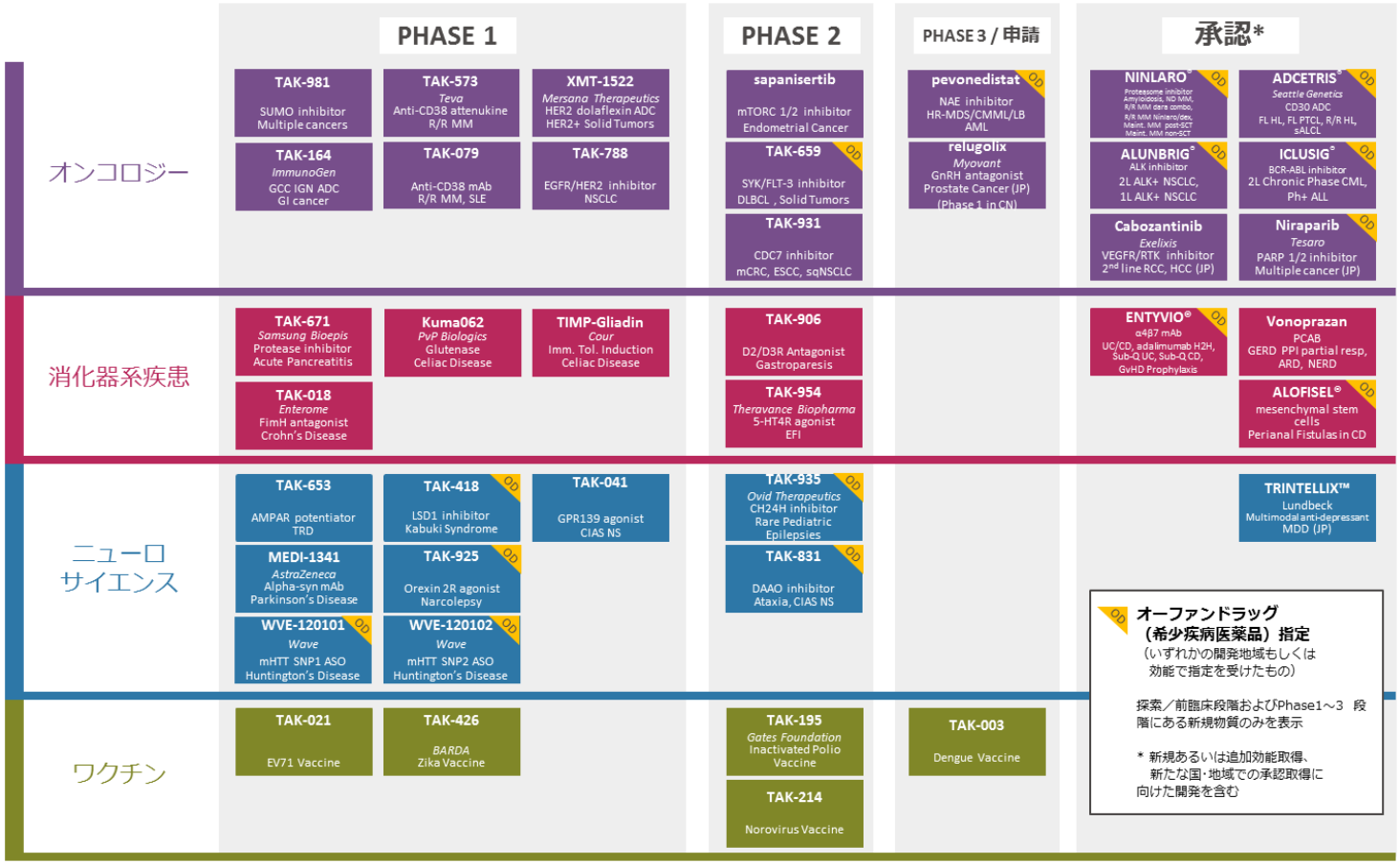
湘南（日本）

ニューロサイエンス
T-CiRA
湘南ヘルスイノベーションパーク

カリフォルニア州 サンディエゴ（米国）

専門性の高い新薬探索技術
消化器系疾患
ニューロサイエンス

変革を通じてダイナミックかつ活性化されたパイプラインを実現



2016年度以降
31のパイプラインが
ステージアップ

46%の
パイプラインが
提携下での開発

83%のパイプラインで
グローバルな開発を
計画／開発権を保有

37%のパイプラインが
オーファンドラッグ指定

2018年10月31日時点
略語については、「略語用語集」ページを参照

シャイアー社買収後は年間4,000億円を超える研究開発投資が可能となり、タケダの研究開発エンジンは更に強化される

4,000億円を超えるR&Dの当初予算は、2017年3月31日を決算日とする事業年度における武田薬品の研究開発費用と2017年12月31日を決算日とする事業年度におけるシャイアー社の研究開発費用を合算し、想定される研究開発のコストシナジーを控除した予算を指します

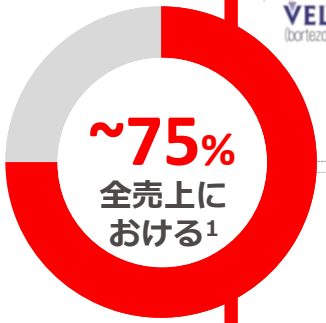
パイプラインの強化により更なる価値を創出

タケダ　シャイアー社　OD オーファンドラック指定

	PHASE 1	PHASE 2	PHASE 3/申請	承認*
オンコロジー	TAK-573 Teva Anti-CD38-attenukine **Refractory MM** XMT-1522 Mersana Therapeutics HER2 dolaflexin ADC **HER2 + solid tumors** TAK-079 Anti-CD38 mAb Refractory MM TAK-788 EGFR/HER2 inh **NSCLC**	sapanisertib mTORC 1/2 inhibitor Breast cancer TAK-659 SYK inhibitor DLBCL (OD) TAK-931 CDC7 inhibitor Solid Tumors	relugolix Myovant GNRH antagonist Prostate Cancer (JP) pevonedistat (OD) NAE inhibitor HR MDS	NINLARO® (OD) Proteasome inhibitor MM R/R (EM), R/R Amyloidosis, Front Line MM, R/R Myeloma doublet regimen, Maintenance MM post-SCT Maintenance MM w/o SCT ADCETRIS® (OD) Seattle Genetics CD30 ADC FL HL, FL MTCL, CTCL ICLUSIG® (OD) BCR-ABL inhibitor Imatinib resistant Chronic Phase CML Second-Line Chronic Phase CML, Ph+ ALL ALUNBRIG® (OD) (brigatinib) ALK inhibitor ALK+NSCLC (EU), FL ALK+ NSCLC cabozantinib Exelixis VEGFR/RTK inhibitor Solid tumors (JP) Niraparib (OD) Tesaro PARP 1/2 inhibitor Multiple cancer (JP)
消化器系疾患	TIMP-Gliadin Cour Imm Tol Indcution Celiac Disease	TAK-906 D2/D3R Antagonist Gastroparesis TAK-954 Theravance Biopharma 5-HT4R ag Enteral Feeding Intolerance SHP625 (OD) ASBTi PFIC, Alagille's SHP626 ASBTi NASH	SHP621 (OD) BOS EoE SHP647 MAdCAM-1 mAb IBD	ENTYVIO® (OD) α4β7 mAb UC/CD (EM), UC (JP), CD (JP), adalimumab H2H Sub-Q UC, Sub-Q CD, GvHD Prophylaxis, GvHD SR, IO Colitis Vonoprazan PCAB ARD (Asia) , NERD (JP) PPI Partial Responder AMITIZA® Sucampo Chloride channel activator Pediatric constipation , New formulation ALOFISEL (OD) Tigenix mesenchymal stem cells Perianal Fistulas in CD GATTEX GLP-2 SBS RESOLOR prucalopride CIC
ニューロサイエンス	TAK-653 AMPAR potentiator TRD TAK-418 (OD) LSD1 inhibitor Kabuki Syndrome MEDI-1341 Astra Zeneca Alpha-syn mAb Parknoson's Disease TAK-925 (OD) Orexin 2R agonist Narcolepsy SHP680 Neurologic Conditions TAK-041 GPR139 agonist CIAS neg. symptoms	TAK-935 (OD) Ovid Therapeutics CH24H inhibitor Rare Pediatric Epilepsies TAK-831 (OD) DAAO inhibitor SCZ, Ataxia		TRINTELLIX™ Lundbeck Multimodal anti-depressant Cognition data in label (CRL received) MDD (JP) BUCCOLAM seizures VYVANSE ADHD MYDAYIS ADHD
希少疾病	SHP611 (OD) ERT MLD SHP631 (OD) ERT Hunter CNS SHP654 (OD) Gene therapy HemA	SHP607 (OD) IGF-1/ IGFBP3 Chronic Lung Disease	Lanadelumab (OD) Anit-kallikrein mAb HAE SHP620 CMV infection in transplant patients SHP609 (OD) Hunter (IT) SHP655 (OD) ERT/ ADAMTS-13 cTTP	FIRAZYR (OD) HAE VONVENDI (OD) vWD CINRYZE (OD) HAE, AMR OBIZUR (OD) CHAWI Surgery
血漿分画製剤				HYQVIA (OD) Pediatric PID, CIDP
ワクチン	TAK-021 EV71 Vaccine TAK-426 BARDA Zika Vaccine	TAK-195 Gates Foundation Inactivated Polio Vaccine TAK-214 Norovirus Vaccine	TAK-003 Dengue Vaccine	
眼科領域	SHP639 Glaucoma	SHP659 DED	SHP640 Infectious conjunctivitis	XIIDRA DED

注: SHP652とNatparaは「その他」に分類されるため本資料には記載なし *臨床開発活動中のものを含む　2018年2月1日現在のパイプライン。
欧州委員会にSHP647および関連する権利のあり得べき売却を、問題解消処置案として提出済 (2018年10月27日プレスリリース)

重点疾患領域への、更なる集中により変革を加速

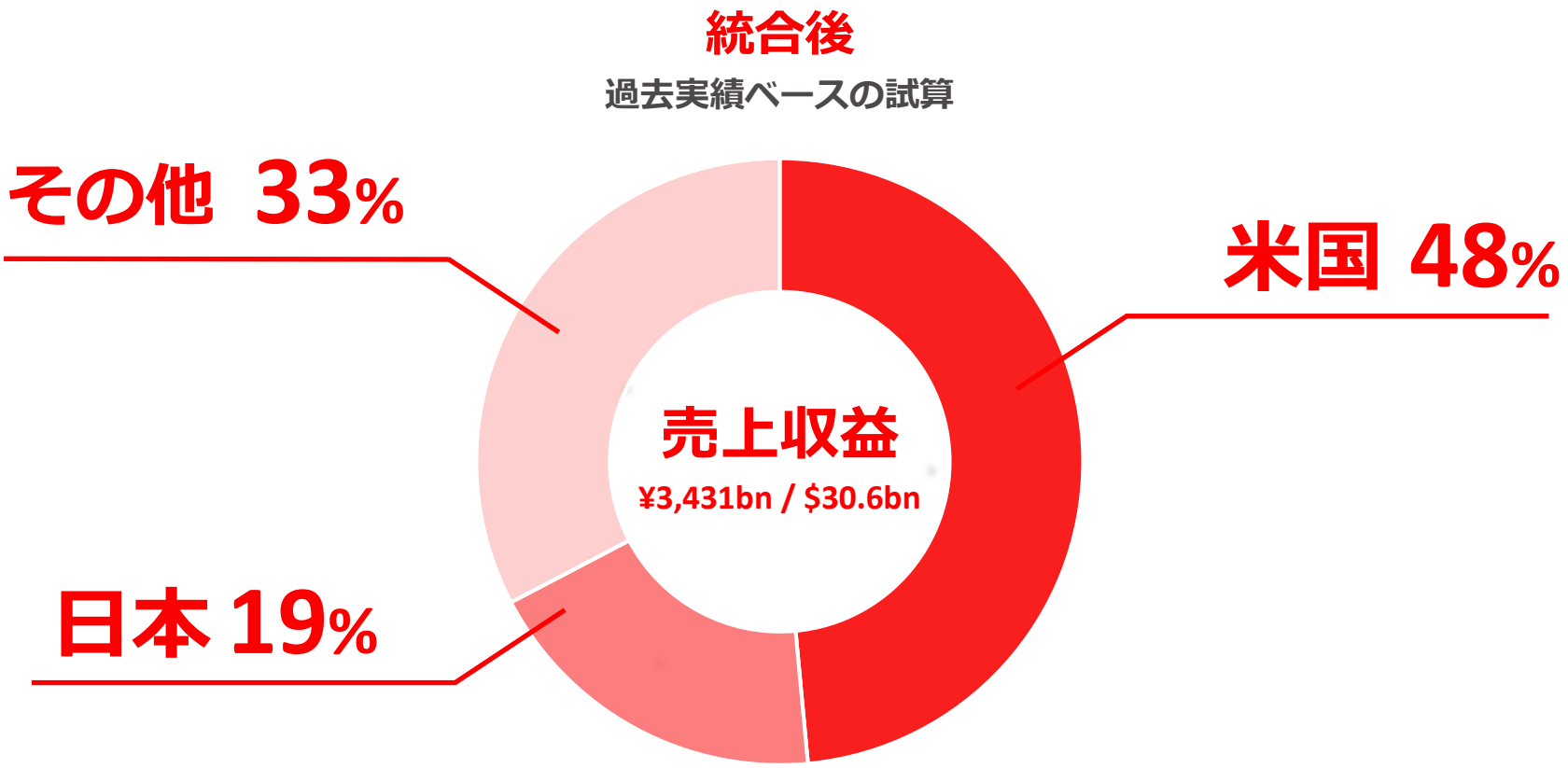


オンコロジー	消化器系疾患	ニューロサイエンス	希少疾患			血漿分画製剤	その他（主な主要製品）	
			ライソゾーム病	HAE[2]	ヘマトロジー			
NINLARO ixazomib capsules ADCETRIS brentuximab vedotin ALUNBRIG ICLUSIG VELCADE (bortezomib)	Entyvio vedolizumab Takecab amitiza lubiprostone DEXILANT dexlansoprazole ALOFISEL	Trintellix vortioxetine AZILECT				献血グロベニン-I 献血ノンスロン 献血アルブミン	Nesina alogliptin Uloric (febuxostat) Colcrys (colchicine, USP) tablets AZILVA® Neosaldina® Magnyl Ebrantil Xefo ...etc.	タケダ主要製品
	Gattex (teduglutide [rDNA origin]) for injection 500-mg capsules PENTASA (mesalamine) controlled-release capsules Lialda (mesalamine) 1.2g delayed release tablets	Vyvanse intuniv Mydayis BUCCOLAM	elaprase (idursulfase) VPRIV REPLAGAL	CINRYZE (C1 inhibitor [human]) firazyr (icatibant) KALBITOR (ecallantide)	ADVATE [Antihemophilic Factor (Recombinant)] FEIBA ADYNOVATE [Antihemophilic Factor (Recombinant), PEGylated] vonvendi [von Willebrand factor (Recombinant)] RIXUBIS [COAGULATION FACTOR IX (RECOMBINANT)] AGRYLIN (anagrelide hydrochloride) Obizur [Antihemophilic Factor (Recombinant), Porcine Sequence]	Cuvitru GAMMAGARD LIQUID [Immune Globulin Intravenous (Human)] 10% HyQvia [Immune Globulin Infusion 16% (Human) with Recombinant Human Hyaluronidase] Flexbumin [Albumin (Human)], USP Glassia Aralast NP (alpha1-proteinase inhibitor [human])	xiidra Natpara ...etc.	シャイアー社主要製品

出所: 2017年シャイアー社アニュアルレポート、2017年3月期タケダ連結財務諸表
注: パーセンテージは、タケダについては2017年3月までの12か月間の数値及び当時の為替レートである1ドル=111.43円を、シャイアー社については2017年12月までの12か月間の数値及び当時の為替レートである1ドル=112.65円を使用し算出。 (1) Management Data (2) 遺伝性血管性浮腫

より魅力的なグローバル事業展開へ

– 日本と米国のポジションは更に強固に



出所: 2017年シャイアー社アニュアルレポートとマネジメントインフォメーション、2017年3月期タケダ連結財務諸表、2018年3月期第3四半期タケダ連結財務諸表
注: パーセンテージは、(1)タケダについては2017年12月31日までの12ヶ月間（2017年3月期第4四半期+2018年3月期第1～第3四半期）の地域別売上高および2017年12月31日の為替レートである1ドル=112.65円を、(2)シャイアー社については2017年12月31日までの12ヶ月間の地域別売上高を使用して算出　統合後については、両社の地域別売上高を合算して計算　売上収益の実績値は(a)タケダについては2017年3月までの12ヶ月の数値を当時の為替レートである1ドル111.43円にて換算し、(b)シャイアー社については、2017年12月までの12ヶ月の数値を当時の為替レートである 1ドル112.65円にて換算し合算した　数値となります。これらの数値は実績値であり、数値確定後に生じたであろう事業売却またはその他のイベントは考慮しておりません。売上収益合計値はタケダの財務諸表上の売上収益とシャイアー社の売上収益（Non GAAP）にて構成されております。

買収後の大幅な利益増加によるキャッシュフロー強化

- 買収完了後、3事業年度末までに
  少なくとも年間1,530億円（14億ドル）の
  税引き前コストシナジーを想定[1]

- タケダの発行済株式総数は約2倍になる
  一方、EBITDA[2]は約3倍に拡大
  （過去実績ベースによる試算[3]）
  買収完了後、1株当たりの利益が
  実質ベースでは買収完了後1年以内に増加、
  財務ベースでは３会計年度内に増加[4]

- のれん（4兆円-4.4兆円）および
  無形資産（6.3兆円-6.7兆円）の
  減損リスクが低い

- 投下資本利益率（ROIC）は買収完了後、
  最初の通期事業年度において
  当社資本コストを上回る見通し

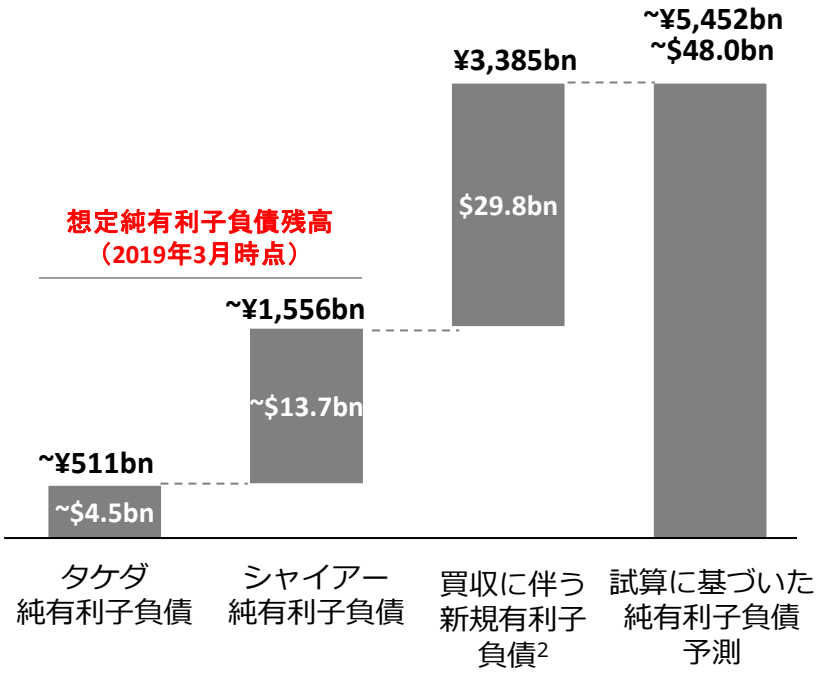
- 1株当たり180円の確立された
  配当方針の維持を企図

- 投資適格信用格付の維持をコミット

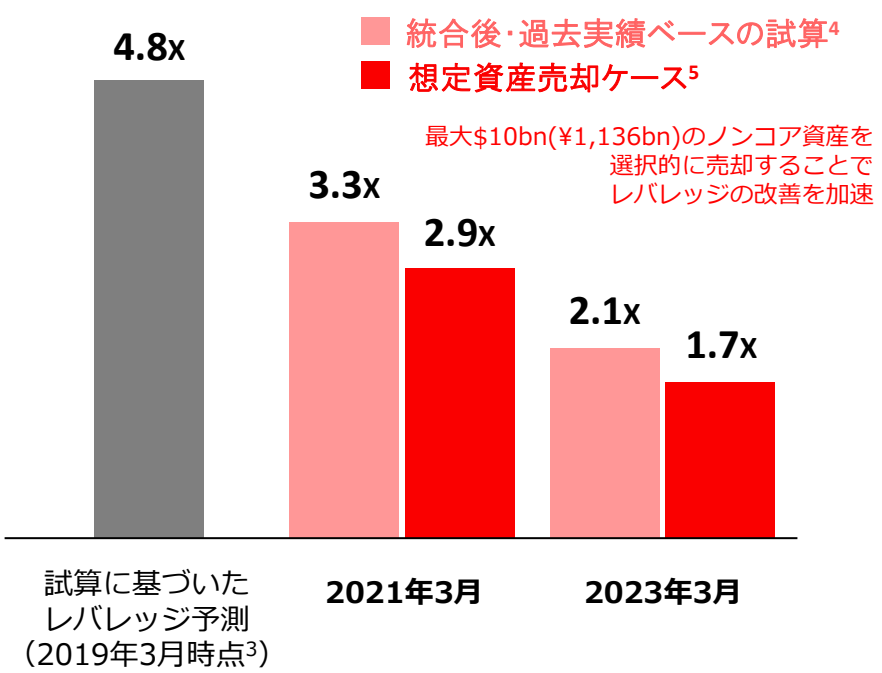
注: [1] 当社取締役は、統合会社における定常税引前コストシナジーが、買収完了後3事業年度末日までに少なくとも年間14億ドルの水準に到達することを想定（5月8日時点の為替レート1ドル＝108.97円]）。これらはTakeover CodeのRule 28.1に則り記載されており、関連する報告は、シナジーの算出方法やシナジー達成によるコストに関する情報と合わせて、2018年5月8日付の当社による2.7アナウンスメントに開示。[2] 利払い前・税引き前・減価償却前利益（Earnings before Interest, Taxes, Depreciation and Amortization）[3]過年度財務数値を基にしたプロフォーマEBITDAは、5月4日時点の為替レート1ドル＝108.97円に基づく2018年3月期末の当社のEBITDA（その他営業損益・無形資産の償却費及び減損・ソフトウェア償却費・固定資産減価償却費・その他一次費用の調整後営業利益）及び、シャイアー社の2018年3月31日までの12ヶ月間EBITDA（2017年度第2-4四半期と2018年度第1四半期合算）より構成。[4] 買収により収益が増加するとの発表は、利益見通しまたは推定を意図しておらず、解釈されるべき内容ではありません。そのため、この発表はTakeover code28の要件に合致するものではありません。現在又は将来における利益及び1株あたり利益が、確実に当社またはシャイアー社の過去の公表された1株当たり利益と同水準もしくは上回ることを意味すると解釈されるべきではありません。

中期的にレバレッジ（純有利子負債/EBITDA倍率）を2倍以下に抑え、投資適格信用格付の維持をコミット

純有利子負債の構成 [1]



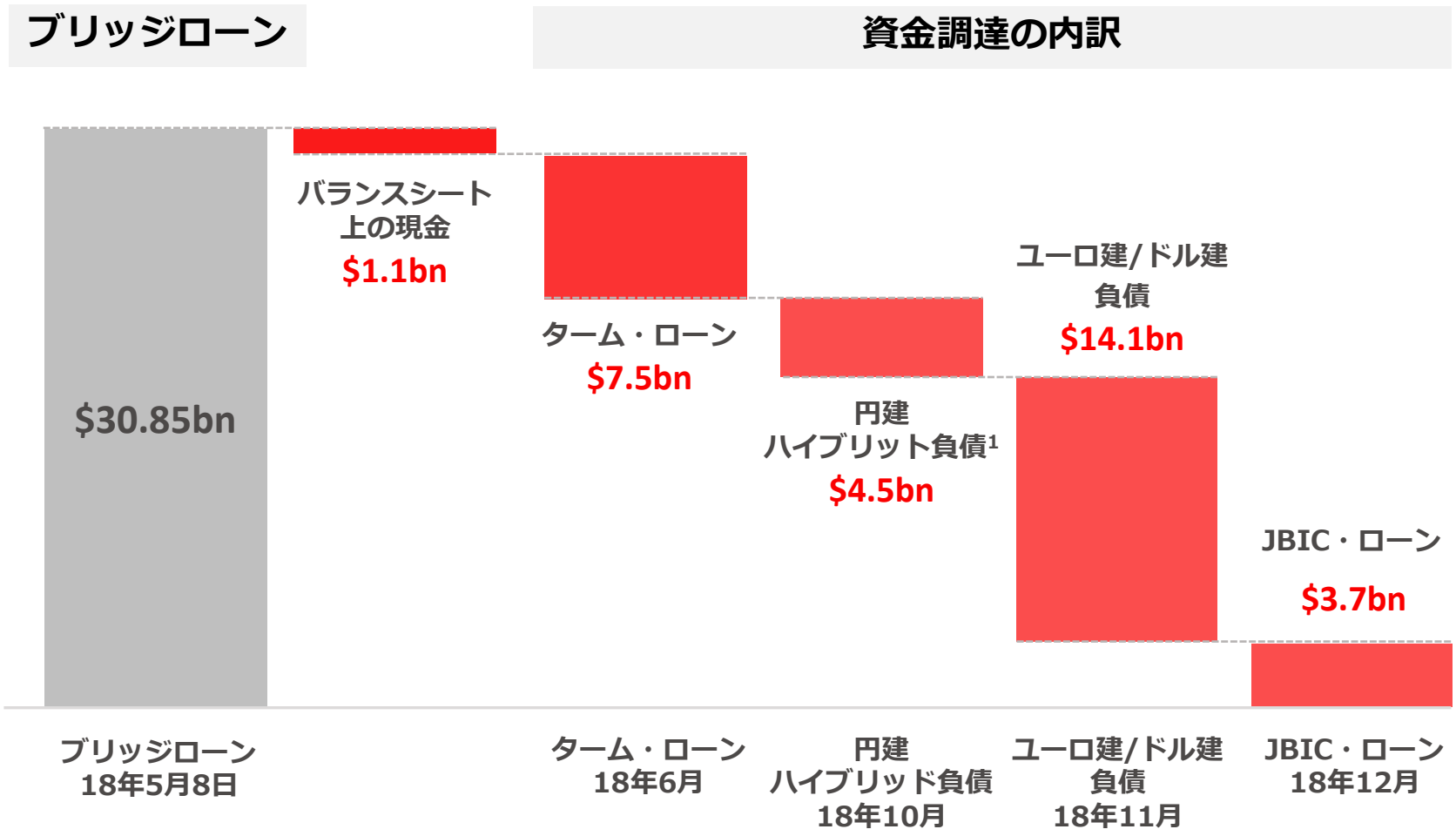
想定レバレッジ



タケダはレバレッジの改善とポートフォリオの最適化において、強固な実績を有する

注: [1] 2018年9月30日時点の為替レート1ドル＝113.6円に基づいて換算された純有利子負債；[2]シャイアー社の買収に際して調達予定の新規有利子負債;[3] 4.8倍の想定プロフォーマ純有利子負債/EBITDA倍率は、~$48.0bnの想定プロフォーマ純有利子負債を用いて計算。EBITDAは以下2項目の合計 ；（1） 2018年5月14日に公表された2018年3月31日時点の連結財務諸表及び為替レート1ドル＝106.35円に基づくタケダの2018年3月期末EBITDA $3,552mm（その他営業損益・無形資産の償却費及び減損・ソフトウェア償却費・固定資産減価償却費・その他一次費用の調整後営業利益）（2）シャイアー社の2018年3月31日時点の12ヶ月EBITDA $6,523mm（2018年2月14日に公表されたシャイアー社の通期決算において開示されている2017年度第2-4四半期及び2018年4月26日に公表されたシャイアー社の第1四半期決算において開示されている2018年度第1四半期EBITDAの合算） [4] 予測される現金残高・年間キャッシュフローを考慮した純有利子負債見通しと会計年度EBITDA見通しに基づく；[5] 予測される現金残高・年間キャッシュフローを考慮した純有利子負債見通し、想定される$10bnの資産売却（税後）及び会計年度EBITDA見通し（資産売却調整後）に基づく

主要なグローバル金融機関を通じた資金調達



[1] 2018年10月に5,000億円（約45億ドル）のシニア短期ローンの契約を締結（5,000億円（約45億ドル）のハイブリッドローンを用いた将来的な借換契約を同2018年10月に締結）

ベスト・イン・クラスのガバナンスを有する取締役体制

CC 報酬委員会

NC 指名委員会

独立社外取締役

社内取締役

クリストフ・ウェバー
代表取締役社長
CEO

岩﨑 真人
取締役
ジャパン ファーマ
ビジネス ユニット
プレジデント

アンドリュー・プランプ
取締役
チーフ メディカル&
サイエンティフィック
オフィサー

社外取締役

坂根 正弘
独立取締役
取締役会議長
指名委員会委員長

ミシェル・オーシンガー
独立取締役

志賀 俊之
独立取締役
報酬委員会委員長

東 恵美子
独立取締役

藤森 義明
独立取締役

監査等委員会

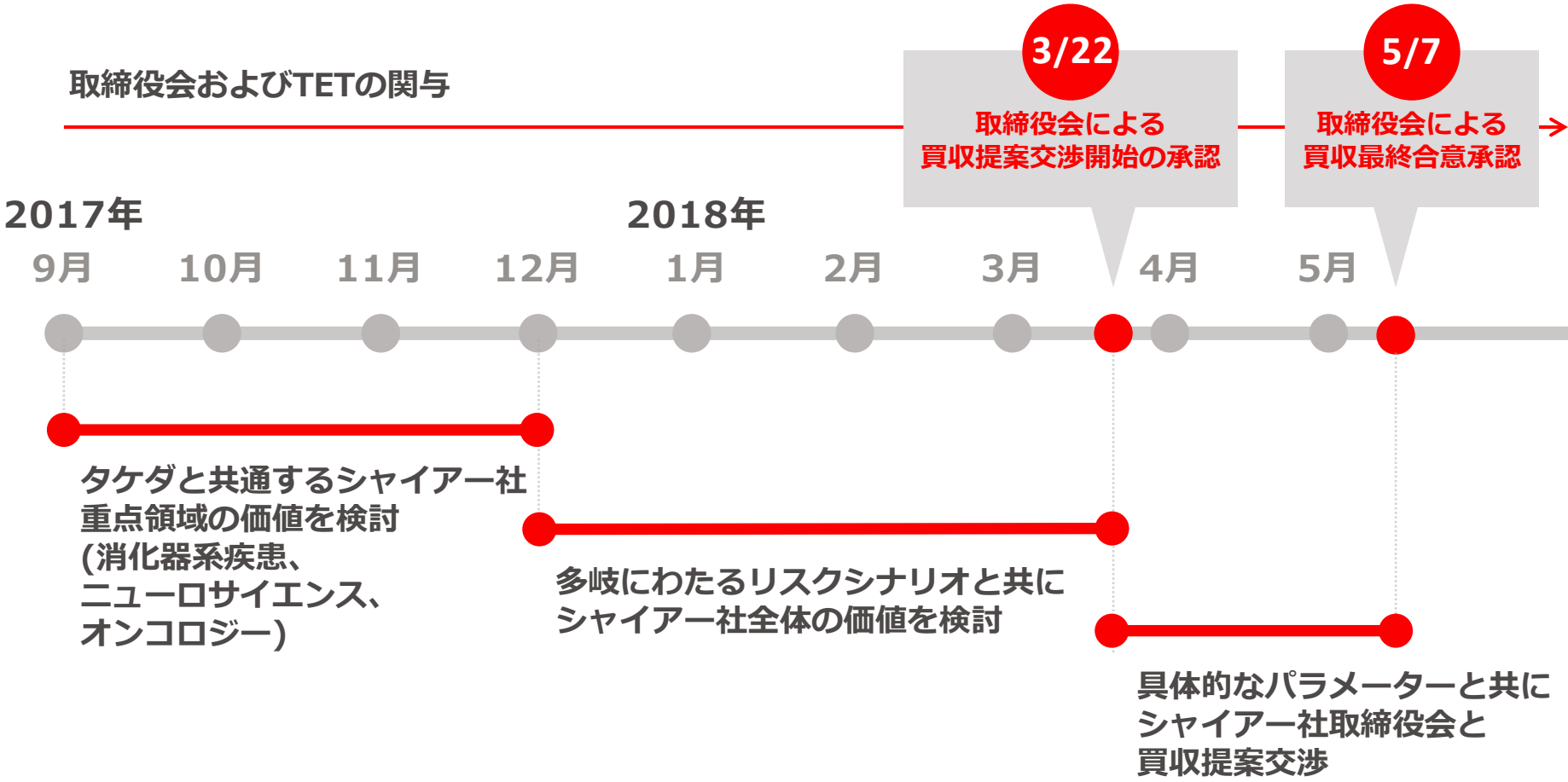
山中 康彦
取締役
監査等委員

国谷 史朗
独立取締役
監査等委員長

初川 浩司
独立取締役
監査等委員

ジャン=リュック・ブテル
独立取締役
監査等委員

取締役会とタケダ・エグゼクティブチーム（TET）は2017年からシャイアー社買収に関する議論に全面的に関与



詳細なリスク分析を含む慎重かつ緻密な検討の結果、取締役会がシャイアー社買収を承認

主なリスク	リスク緩和策
金融市場関連リスク 例: ▪ 調達金利リスク ▪ 為替リスク	• 投資適格信用格付の維持 • 適切な通貨配分および競争力のある金利による調達 • ノンコア資産売却の検討
事業関連リスク 例: ▪ 競合リスク ▪ 薬価引下げリスク	• 慎重な将来収益予測モデルによる検討 • シャイアー社の既に収益を上げている上市製品とパイプラインを含んだ慎重な収益予測により、のれんおよび無形資産の減損リスクを緩和
統合関連リスク 例 ▪ 文化の違い ▪ シャイアー社の人材流出	• 経験豊富なリーダーによる綿密な統合準備 • タケダの社名・価値観（バリュー）・事業目的を維持 • 「患者さん中心の研究開発型企業」という両社の共通目標を促進 • タケダ・シャイアー社両社員のノウハウを最大限活かす組織体制の構築

統合プランは計画通り進行中
- 両社の強みを活かし、新たな事業体制を構築する

原則

患者さん中心

- 力強い研究開発体制を通じ、より革新的な医薬品を開発する
- 患者さんに寄り添い、それぞれのニーズに決め細やかに対応する

機動性とシンプルさ

- LOC*中心のアプローチを継続し、現地の意思決定を各国の責任者に委譲する
- 複雑さを最小限に留める

*現地販売会社

効率性と集中

- 6つのビジネスドライバーに集中する
- 各国のリソースの適切なバランスを保ちつつ、グローバルスケールを生かす
- 厳しさを増す事業環境に適応可能な組織を構築する

4 地域体制

3 グローバルビジネスユニット

血漿分画製剤 BU　オンコロジー BU　ワクチン BU

グローバルかつ多様性に溢れた経験豊富な新タケダ・エグゼクティブチーム（TET）（統合完了後）

クリストフ・ウェバー
代表取締役社長
CEO

コスタ・サルウコス
グローバル ファイナンス

平手　晴彦
コーポレート
コミュニケーション&
パブリックアフェーズ
(CCPA)

中川　仁敬
グローバル法務

パドマ
ティルヴァンガダム
グローバル HR

古田 未来乃
経営企画

ムワナ・ルゴゴ
グローバル エシックス＆
コンプライアンス

ラモナ・セケイラ
US ビジネスユニット
(USBU)

岩﨑真人
ジャパンファーマ
ビジネスユニット
(JPBU)

ジャイルズ
プラットフォード
EUCAN
ビジネスユニット
(EUCANBU)

リカルド・マレック
エマージング・マーケッツ
ビジネスユニット
(EMBU)

クリストフ・ビアンキ
グローバルオンコロジー
ビジネスユニット
(OBU)

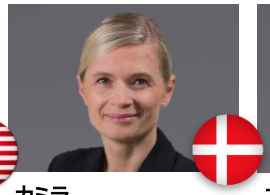
ラジーヴ・ヴェンカヤ
グローバル ワクチン
ビジネスユニット
(GVBU)

ジュリー・キム[1]
グローバル プラズマ
ディライブドセラピー
ビジネスユニット(PDTBU)

アンディー・プランプ
R&D

トーマス
ウォスニフスキー
グローバル
マニュファクチャリング&
サプライ (GMS)

ジェラード・グレコ
グローバル クオリティ



カミラ
ソエンダービ[1]
グローバルペイシェント
バリュー&プロダクト
ストラテジー　(PVPS)

マルチェロ・アゴスティ
グローバル ビジネス
ディベロップメント

ヘレン・ギザ
統合オフィス

[1]シャイアー社からの新たなエグゼクティブメンバー

3名の新たな社外取締役の任命により、更に多様性のある、より強固な取締役会に

CC 報酬委員会

NC 指名委員会

独立社外取締役

社内取締役

クリストフ・ウェバー
代表取締役社長
CEO

岩﨑 真人
取締役
ジャパン ファーマ
ビジネス ユニット プレジデント

アンドリュー・プランプ
取締役
チーフ メディカル&
サイエンティフィック オフィサー

社外取締役

坂根 正弘
独立取締役
取締役会議長
指名委員会委員長

ミシェル・オーシンガー
独立取締役

志賀 俊之
独立取締役
報酬委員会委員長

東 恵美子
独立取締役

藤森 義明
独立取締役

イアン・クラーク[1]
独立取締役

オリビエ・ボユオン[1]
独立取締役

スティーブン・ギリス[1]
独立取締役

監査等委員会

山中 康彦
取締役
監査等委員

国谷 史朗
独立取締役
監査等委員長

初川 浩司
独立取締役
監査等委員

ジャン=リュック・ブテル
独立取締役
監査等委員

[1]シャイアー社からの新たな独立社外取締役

シャイアー社買収は
タケダが今後、
「日本に本社を置く、経営の基本精神に基づく
　グローバルな研究開発型バイオ医薬品企業の
　リーディングカンパニー」
となるための変革を加速させます

略語用語集

AD	Alzheimer's disease（アルツハイマー病）
ADC	antibody drug conjugate（抗体薬物複合体）
ADHD	attention deficit hyperactivity disorder（注意欠陥多動性障害）
ALK	anaplastic lymphoma kinase（未分化リンパ腫キナーゼ）
ALS	amyotrophic lateral sclerosis（筋萎縮性側索硬化症）
AML	acute myeloid leukemia（急性骨髄性白血病）
AMR	antibody mediated rejection（抗体関連型拒絶反応）
ASCT	autologous stem cell transplant（自家幹細胞移植）
ARD	acid-related diseases（酸関連疾患）
BTK	Bruton's tyrosine kinase（ブルトン型チロシンキナーゼ）
BBB	blood brain barrier（血液脳関門）
BOS	budesonide oral solution（ブデソニド経口懸濁液）
CAR-T	Chimeric antigen receptor-T（次世代型キメラ抗原受容体発現T細胞）
CD	Crohn's disease（クローン病）
CHAWI	congenital hemophilia A with inhibitors（インヒビター保有先天性血友病A）
CIAS	cognitive impairment associated with schizophrenia（統合失調症に伴う認知障害）
CIC	chronic idiopathic constipation（慢性特発性便秘）
CIDP	chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy（慢性炎症性脱髄性多発神経炎）
CML	chronic myeloid leukemia（慢性骨髄性白血病）
CMML	chronic myelomonocytic leukemia（慢性骨髄単球性白血病）
CSF	cerebral spine fluid（脳脊髄液）
CNS	central nervous system（中枢神経系）
CRL	complete response letter（審査完了報告通知）
CTCL	cutaneous T Cell Lymphoma（皮膚T細胞性リンパ腫）
CTTP	congenital thrombotic thrombocytopenic purpura（先天性の血栓性血小板減少性紫斑病）
DAAO	D-amino acid oxidase（D-アミノ酸酸化酵素）
DED	dry eye disease（ドライアイ）
DLBCL	diffuse large B cell lymphoma（びまん性大細胞型B細胞リンパ腫）
DM	diabetes mellitus（糖尿病）
DU	duodenal ulcer（十二指腸潰瘍）
Dx	diagnosis（診断）
EE H	erosive esophagitis healing（びらん性食道炎の治癒）
EE M	erosive esophagitis maintenance（びらん性食道炎の再発予防）
EFI	enteral feeding intolerance（経腸栄養不耐性）
EGFR	epidermal growth factor receptor（上皮増殖因子受容体）
EOE	eosinophilic esophagitis（好酸球性食道炎）
ESCC	esophageal squamous-cell carcinoma（食道扁平上皮がん）
FL	front line（フロントライン適応）
FLT-3	FMS-like tyrosine kinase 3（FMS様チロシンキナーゼ3）
FSI	first subject in（最初の患者登録）
GCC	guanylyl cyclase C（グアニル酸シクラーゼC）
GERD	gastroesophageal reflux disease（胃食道逆流症）
GI	gastrointestinal（胃腸）
GnRH	gonadotropin-releasing hormone（ゴナドトロピン放出ホルモン）
GU	gastric ulcer（胃潰瘍）
GvHD	graft versus host disease（移植片対宿主病）
HAE	hereditary angioedema（遺伝性血管浮腫）
H2H	head to head（直接比較）
HCC	hepatocellular carcinoma（肝細胞がん）
HemA	hemophilia A（血友病A）
HER2	human epidermal growth factor receptor 2（ヒト上皮成長因子受容体2）
HL	Hodgkin's lymphoma（ホジキンリンパ腫）
HR MDS	high risk myelodysplastic syndromes（高リスク骨髄異形成症候群）
IBD	inflammatory bowel disease（炎症性腸疾患）
IBS-C	irritable bowel syndrome with constipation（過敏性腸症候群便秘型）
IND	investigational new drug（治験薬）
I/O	immuno-oncology（がん免疫治療）
IV	intravenous（静脈投与）
iPSC	induced pluripotent stem cells（人工多能性幹細胞）
LBD	Lewy Body Dementia（レビー小体病）
LB AML	Low-Blast Acute Myeloid Leukemia（低ブラスト急性骨髄性白血病）
LSD1	Lysine specific demethylase 1（リジン特異的脱メチル化酵素1）
LCM	lifecycle management（ライフ・サイクル・マネジメント）
mAb	monoclonal antibodies（モノクローナル抗体）
MAOB	monoamine oxidase B（モノアミン酸化酵素B）
MLD	metachromatic leukodystrophy（異染性白質ジストロフィー）
NAE	NEDD8 activating enzyme（NEDD8活性化酵素）
NASH	non-alcoholic steatohepatitis（非アルコール性脂肪性肝炎）
ND	newly diagnosed（新たに診断された）
NDA	new drug application（新薬承認申請）
Neg	negative（陰性）
NERD	non-erosive reflux disease（非びらん性胃食道逆流症）
NF	new formulation（新規剤型）
NK	natural killer（ナチュラルキラー）
NME	new molecular entity（新規候補物質）
NSCLC	non-small cell lung cancer（非小細胞肺がん）
NSCT	non stem cell transplant（非幹細胞移植）
NS	negative symptoms（陰性症状）
OIC	opioid induced constipation（オピオイド誘発性便秘症）
ORR	overall response rate（全奏効率）
PARP	poly (ADP-ribose) polymerase（ポリADPリボースポリメラーゼ）
PBS	phosphate buffered saline（リン酸緩衝生理食塩水）
PCAB	potassium competitive acid blocker（カリウムイオン競合型アシッドブロッカー）
PFIC	progressive familial intrahepatic cholestasis（進行性家族性肝内胆汁鬱滞）
Ph+ ALL	Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia（フィラデルフィア染色体陽性ヒト急性リンパ性白血病）
PID	primary immunodeficiency（原発性免疫不全）
PPI	proton pump inhibitor（プロトンポンプ阻害薬）
PK	pharmacokinetics（薬物動態）
POC	proof of concept（概念実証）
POI	post-operative ileus（術後イレウス）
PTCL	peripheral T-cell lymphoma（末梢性T細胞リンパ腫）
R/R	relapsed/refractory（再発/難治）
RA	rheumatoid arthritis（リウマチ性関節炎）
RCC	renal cell cancer（腎細胞がん）
RTK	receptor tyrosine kinase（受容体チロシンキナーゼ）
sALCL	systemic anaplastic large cell lymphoma（全身性未分化大細胞リンパ腫）
SBS	short bowel syndrome（短腸症候群）
SC	subcutaneous formulation（皮下投与製剤）
SCT	stem cell transplant（幹細胞移植）
SCZ	schizophrenia（統合失調症）
SLE	systemic lupus erythematosus（全身性エリテマトーデス）
sq	squamous（扁平上皮）
SR	steroid refractory（ステロイド抵抗性）
SR-GvHD	steroid refractory acute graft vs host disease（ステロイド抵抗性急性移植片対宿主病）
STING	stimulator of interferon genes（インターフェロン遺伝子刺激因子）
SUMO	small ubiquitin-related modifier（低分子ユビキチン様修飾因子）
SYK	spleen tyrosine kinase（脾臓チロシンキナーゼ）
TESD	treatment emergent sexual dysfunction（治療に起因する性機能障害）